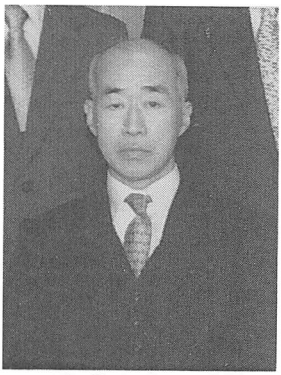
安井広先生の御逝去を悼む

津田進三

日本医史学会評議員安井広先生は平成五年一月十五日、心不全のため逝去されました。享年七十九歳。先生は東京都のご出身で、昭和十四年慈恵医大を卒業され、昭和二十二年愛知県幡豆郡吉良町に開業されましたが、その旁ら精力的に医史学を御研究になり、特にベルツの研究家として広く知られています。

先生にはじめてお目にかかったのは既に二十数年も前ですが、昭和四十三年日本医史学会関西支部大会の際に中野操先生の御紹介で親しく先生から御教示を頂いたのが、長いご交誼を頂く最初でした。この時先生から完成した許りの『碧南市医師会史』のことを伺い、先生御執筆の「近藤坦平の業績及びその一族」の抜刷を頂きましたが、調査された貴重な史料の数々を解説なさる先生の御学識とご熱意とすごい迫力には本当に圧倒される思いでした。



安井広評議員

ついで昭和四十六年に愛知県医師会が頗るユニークな『愛知県医事風土記』を発刊されました際には、いろいろ楽しいエピソードを伺いました。間もなく先生は岐阜の江馬家をお訪ねになられて「江馬文書研究会」の主要メンバーの一人として『江馬家来簡集』などの刊行に大きな貢献をされましたが、江馬元恭の「弗古作無熱病全書」や「五液診法」などについての先生の実に立派な御研究は、次々

と『医譚』の紙上を飾られたものでした。

そしてヨーロッパに旅して数々の医史跡を訪ねられたお話などを伺っております頃から、いよいよ先生のライフワークのベルツの御研究がはじまったように存じます。

先生のベルツ研究のご発表は昭和五十三年頃から頻回となり、ベルツの内科病論、脚気伝染病論、鼈氏内科学、内科全書、日本鉱泉論、発疹チフス、ツツガ虫病、病理学総論及び各論講義など実に驚くべき精緻さでした。先生はベルツの著書はその各版までくまなく調査せられ、その他雑誌発表の小論文に至るまで実に広範囲にわたって蒐集せられて、その成果を毎年連続して公表されました。特にそのハイライトは何といっても昭和五十九年に名古屋で開催の第八十五回日本医史学会総会の特別講演「E・ベルツの『憑依とその類似状態について』」でした。これはベルツがドイツへ帰国してその翌年に行った講演を中心として、ベルツの精神医学における業績を見事に要約評価なされたもので、先生の多年の御研究の集大成でした。

先生はまた蘭学資料研究会、医学史研究会、日蘭学会、東海蘭学の会など御関係の学会も多く、適塾門下生の調査にもご尽力なされるなど多方面に活躍なされて、本当に篤学で着実な先生でした。

先生はあくまでも謙虚に、誠実をもって人に尽され、温かい心くばりのある御助言を頂けるお方でした。

これからの学会で先生のお姿に接しられないのは本当に淋しいことです。心から深く敬慕申し上げ、御冥福をお祈り申し上げます。